

アリ 米国出身の元キリスト教徒

5.0

明:私の名はアリ です。私は31 の米国生まれのメキシコ系、いわゆる「チカノ」です。

目: [事新改宗者ムスリムの逸 男性](#)

より: アリ

日: 18 Mar 2013

集日: 18 Mar 2013

私は、自分がムスリムになった についてのウェブサイトを作る予定で、インシャアッラ（神の御意であれば）、それが少しでもイスラ ム理解の役に立てればと思っています。人々はイスラ ムとムスリムについて 解しており、彼らのイスラ ムに する少ない知は映画やテレビから来ていますが、それらは必ずと言っていいほど っています。

私の 去の人生は、方向性の全くない いものでした。私は高校を中退して以来、人生を にしてきました。私は路上にたむろし、その大半がギャングのメンバ だった友人たちとパ ティ を き、マリファナでハイになったり、酒に いつぶれたりしたものでした。私自身はギャングに入ったことはありませんでしたが、彼らが不良になる前からの付き合いだったので、良い を保っていたのです。私は徐々に、より 力な麻 に手を染め出し、持っていた も手の届かない いものとなっていきました。私は落ち む度に、そこからの一 的な 逃避として麻 に手を出しました。

ある日友人が、良 のマリファナが手に入る 所を知っていると言うので、そこに一 に行くことにしました。私たちはあるアパ トに到着して中に入りました。そこには何人かがおり、私たちは座って世 をしつつ、そのマリファナを し吸いしていました。友人と一 にそれを い、そこから出ようとしたところ、その内の一人が本をくれるというので、彼のアパ トに行くことにしました。

この人物のアパートに着くと、彼は私の友人に一冊の本を手渡し、それを読むよう促しました。それは人生の解の手助けになるだろうと言うのです。路、彼がもらった本をせてもらおうと、それはクルアーン（コラン）でした。

私はクルアーンのことを生まれて以来一度も聞いたことがなかったので、その一部のページを少し読んでみることにしましたが、するとそれが真であることは明らかで、まるで打ちのめされたかのようなようでした。クルアーンは非常に明快で、理解し易いものです。私はとても感心し、イスラームとムスリムについてもっと知りたいと思いました。

奇妙なのは、私は新しい宗教を求めてもいなかったことで、私は教会に行く人々を嘲笑したり、（心の奥底ではその存在を信じていたものの）には神など存在しない、と言い切ったりしていたのです。数日、私は行行ってクルアーンを借りてくることにしました。そのと勉を通し、私は言者ムハンマドと、マリアの子イエスの真の物について学びました。クルアーンは神の唯一性をし、神には同位者や子女のないことを明らかにします。三位一体の本を理解出来たことがなかったため、私にとってこのことが最も味深いことでした。クルアーンはイエスの生と、彼の使命について明します。また、そこにはマルヤム（マリア）章と呼ばれるスラ（章）があり、彼女の物も存在しています。

私の母はセブンスデーアドベンチスト教会の信者で、子供だった私と妹を土曜日に教会に連れていきました。私自身は宗教的ではなく、14、15のときに教会に行かなくなりました。私たち以外の家族メンバーはカトリックで、私はなぜ私たちだけセブンスデーアドベンチストで、他の皆はカトリックなのかと疑に思っていました。メキシコの家族に会いに行くと、カトリックの結婚式や式典に出席していました。

ムハンマド（神の慈悲と祝福あれ）は、全人のために遣わされた、最後の言者です。クルアーンはアダム、アブラハム、ノア、イサク、ダビデ、モーゼ、イエスを始めとする言者の逸話を、明瞭で理解し易い方法で物ります。私は店でクルアーンを購入し、何ヶ月もイスラームのことを調べ、医学や科学におけるイスラームの貢献などを学びました。

私はスペインが1000年近くムスリム国家だったこと、またキリスト教徒の王と王女（フェルディナンドとイザベラ）によってムスリムがスペインから逐されたとき、キリスト教徒のスペイン人たちがメキシコに渡り、先住民のアステカ人などをキリスト教に改宗させたことを知りました。史と自らのルーツがすべて明になりつつありました。

数ヶ月に渡る研究の末、私はそれ以上真を拒否しつづけることが出来なくなりましたが、依然として相変わらずの生活を続けており、もしムスリムになったのであれば、その生活をすべてえなければならぬことを知っていました。ある日、クルアーンをみると、私は堪えることが出来なくなり、膝から崩れ落ち、真にいてくれたアッラに感しました。私は近所にモスクがあることを知ったので、ある金曜日、ムスリムがどのように集礼をしているのかてくることにしました。そこには、あらゆる皮の色、人々の人々が集っていました。彼らはモスクに入るときは靴を脱ぎ、毯が敷かれた床の上に座っていました。その中の一人が立ち上がってアザン（礼の呼びかけ）をすると、その美しさから私の目には涙が溢れました。最初は非常に不思議な感じでしたが、同時にとても正しいことだと感じました。イスラームはなる宗教のみを超えた、人生の生活なのです。

何度か金曜礼に参加した、私はシャハダ（信仰言）をしてムスリムになる用意が出来ました。

私はハティブ（教）に、自分がムスリムになりたいことを告げ、次の金曜日に人々の前でまず最初にアラビアで、次に英でシャハダを述べました。「私はアッラ以外に神はなく、ムハンマドがかれの使徒であることを言します。」

私がおえると、一人が「タクビル！」と言い、人々は数回「アッラ フ アクバル（神は大なり）！」と言いました。そして皆が私のもとに集まり、一人一人から抱されました。私は一日でそれほどまでの抱をされたことがありませんでしたし、その素晴らしい日のことをして忘れはしないでしょう。私は1997年以来ムスリムで、自分自身のと、明な宗教に足しており、ムスリムであることは私の人生を良い方向にえました。全能なる神にえあれ。私はその高校の卒格を得て、コンピュータ技としてのを受けました。

また、私は 都マッカでのハッジ（大巡礼）を行うという祝福も受けました。そこでは、世界中から肌の色が なる300万人もの人々が、全能なる 造主である唯一の神を崇 するために集まるのです。アルハムドゥリッラ（神に えあれ）、その 2002年の12月、私はモロッコ出身の非常に敬虔なムスリム女性と 婚しました。

私はイスラ ムこそが、若者と社会の を解 する答えだと 信じています。インシャ アッラ（神の御意であれば）、私の改宗 によってより多くのラテンアメリカ系、そして全ての人 がイスラ ムの光に かければ本望です。

この 事のウェブアドレス:

<https://www.islamreligion.com/jp/articles/1182>

著作 2006-2015 断 を禁じます。 2006 - 2023 IslamReligion.com. 断 を禁じます。